

「治す治療」から「守る治療」へ。歯科医療は、いま変革の中にある。従来は、虫歯を削り取り、そこに金属をかぶせる、また入れ歯・差し歯で、失った歯を補う・・・そんな方法が、当たり前とされてきた。虫歯・歯周病に続く、第三の治療としての「咬み合わせ治療」に取り組んでいるのが、平賀歯科医院（大阪府・東大阪市）の院長、平賀敏人さん。彼の、熱き理想に迫った。

（長谷川真理子）

平賀敏人

平賀敏人
平賀敏人さん



「歯学の道に進んで20年…。歯科治療の、奥の深さや可能性が見えてきて、この頃やっと、その面白さが分かってきましたね」

爽やかな笑顔が印象的な平賀さん。

「うちは、父の代からなので、40年続いてます。僕が、ここに戻って来たのが2年前ですが、古くからの患者さんは父が診て、新規の患者さんは僕・と分担して、予約診療制も導入しました。5台あったチェアも、3台に減らし、一人ひとりの患者さんを、じっくり診察するやり方に変えました」

「医者の家系だという、血統の良さ。しかし、耳を傾けるうち、彼の学究肌と、前向きな姿勢が見えてくる。」

「最近、ようやく痛くなく、はずれにくくて、食事中に食べ物がはさまらない総入れ歯ができる

ようになりました。そして、この技術を広めて、

入れ歯に悩むすべての患者さんに提供できるようにしたいですね」と、目が輝く。

「僕が今、次に力を入れてるのは”咬合（こうごう）治療”。一言で

”咬み合わせ”といっても、人それぞれに状態が全く違います。試行錯誤の毎日ですが、単に、虫歯を治すだけでなく、患者さんに、より快適に、生活ができるようになっていただきたいですね。実際、患者さんの中には、咬み合わせを治すことで、肩こりや、頭痛がなくなった

咬合(こうごう)治療に注ぐ情熱

プロフィール（ひらが・としひと）昭和38年7月10日生まれ。39歳。東大阪市出身。灘高校卒業。大阪大学歯学部卒業。同大学治療科を経て、インプラント専門医、ならびに小児歯科での研修後、平成7年、父が開業していた平賀歯科医院の副院長に。同9年、父の逝去に伴い、院長就任。10年、大阪大学歯学部で博士号取得。同大学歯学部の非常勤講師も務める。趣味は釣りと、陶磁器を見て歩くこと。最近はゴルフにはまっている。家族は、夫人と一男一女。

というケースが多いんですよ」

大学卒業後、小児歯科勤務をしたのは、子供が好きだから、という平賀さん。

「本当は、治療することより、乳歯が生えるところから、虫歯もなく、その人に合った歯並びが完成できるように、ずっと管理していきたいですね。年数のかかる仕事ですが、今後の夢です」と、壮大な理想をい

く。熱意あふれる、彼の飛躍に期待しよう。

TEL06 (678) 0282
URL <http://home.wondernet.ne.jp/egj1255/>
(平賀歯科で検索可)